別 紙 5

世界記憶遺産登録記念式典の開催計画について

（案）

1　開催計画方針

世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の炭坑記録画等は、本市や市民の財産であると同時に、ユネスコの世界記憶遺産保護の一般指針には「世界記憶遺産とは、・・・現在及び未来の世界共同体に残された過去からの遺産」とあることから、登録記念式典の開催計画方針としては、「市民・国内外・継承」の３点を主眼におくこととする。

≪趣旨≫

平成２３年５月２５日、田川市及び福岡県立大学が共同で申請していた山本作兵衛氏の炭坑記録画等が世界記憶遺産として正式に登録されたことを受け､その意義を踏まえ、炭鉱文化等に係る国内外への情報発信を積極的に行うとともに、今後は当該記憶遺産の活用を図り、田川市石炭記念公園を日本の炭鉱文化の「聖地」として位置づけ、世界に誇れる炭鉱文化の交流拠点として賑わいを創出し、さらに、本市の観光振興や地域経済の活性化など幅広く本市のまちづくりに繋げていく必要がある。

同時に、我が国の戦後復興と近代化産業の根幹を成した炭都田川の歴史的意義、炭鉱文化等を次世代へ継承するため、山本作兵衛氏の炭坑の記録画等を通して歴史、文化等にふれる機会を設け、ふるさと「田川」への郷土愛、誇りや自信を持って、その価値を守り育んでいく機運の醸成を行うなど幅広く本市の人づくりに繋げていくことも必要である。

以上のことを踏まえ、この世界記憶遺産の登録に際し、市民の世界記憶遺産に対する共通認識と国内外への情報発信、次世代への継承を目的として記念式典をとり行う。

２　主　　催

主催者については、登録を受けた記録画等を所蔵する田川市、福岡県立大学と本検討委員会とする。

≪主催者≫

田川市

田川市教育委員会

福岡県立大学

山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書の保存・活用検討委員会

（以下「検討委員会」という。）

３　共催・後援

共催・後援については、検討委員会委員の所属団体等に共催・後援を依頼することが考えられる。

≪共催・後援依頼先例≫

山本家、文化庁、九州国立博物館、九州大学、日本大学、九州国際大学、九州造形短期大学、福岡県、福岡県教育委員会、福岡県議会、田川市区長会長、田川市観光協会、田川文化連盟、田川商工会議所、田川地区進出企業協議会、田川白鳥団地工業会、田川農業協同組合、田川青年会議所、田川郡町村会、株式会社ＪＴＢ、福岡空港ビルディング㈱

４　日　　時

開催日を選定するに当たり、節目なり縁のある日等として「登録後直ぐ」、「年内」、「年度内」等が想定されるが、準備期間等を考慮すると「年内」は非常に困難であり、年度内についても強い選定理由とは言い難い。

世界記憶遺産登録が決定してから現在までの間、次に掲げるセレモニー等を開催してきており、お披露目や簡易な登録記念式は開催済みである。

平成２３年　５月２６日	登録連絡後の緊急記者会見
平成２３年　７月　７日	世界記憶遺産ロゴマーク受領の記者会見 （６月２９日ロゴマーク受領）
平成２３年　８月　４日	認定書受領の記者会見 （ユネスコ及び高木文部科学大臣のメッセージ披露）
平成２３年　９月１６日	登録記念原画展開催内覧会（報道対象）
平成２３年　９月１７日	登録記念原画展開催セレモニー（テープカット）

縁のある日としては、５月（１７日）が山本作兵衛氏の生誕月（１２０年）であり、世界遺産の登録決定の連絡を受けた月も５月（１周年）である。

また、現在、各検討部会で分野毎の計画作成を進めているが、年度末前後に最終報告又は中間報告がなされることが想定されるため、５月開催の式典をその報告の発表の場とすることが可能である。

一方、検討委員会の会長、副会長等から次の４名の参加を要望されているため、この４名に参加要請する場合、日程調整のためにある程度の期間が必要となる。

近藤　誠一　氏	文化庁長官
ジョイ・スプリンガー氏	世界記憶遺産委員会委員長
マイケル・ピアソン氏	「九州・山口の近代化産業遺産群」専門家委員会委員
加藤　康子　氏	「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会コーディネーター

以上の点を踏まえ、平成２４年５月１３日を開催日の候補とする。

※　平成２４年５月の会場空き状況やゴールデンウィーク等行事日程を考慮

５　会場

会場は、本市の施設で、相当規模の式典開催が可能である田川文化センター（田川市、管理は指定管理者）とする。

田川文化センター

ア　式　　典　　大ホール（１２００席・車椅子用スペース４席分）

イ　受　　付　　１階又は２階ホワイエ

ウ　展　　示　　１階展示ホール及び２階ホワイエ

エ　物　　販　　２階ホワイエ

※参考

平成５年田川市市制施行５０周年記念式典実績

招待者　１６３７人

出席者　　８５４人